opusdei.org

属人区長の書簡 (2011年1月)

新年にあたっての教皇のメッセージに応えて、オプス・ディ属人区長は、「神を愛し、神ゆえに全ての人を愛する」ために必要な自由について、1月の書簡において語ります。

2011/01/07

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに! 降誕祭の夜に続く日々の典礼で、次の詩編の言葉を度々私たちは唱えています。「新しい歌を主に向かって歌え。全地よ、主に向かって歌え。主に向かって歌い、御名をたたえよ。日から日へ、御救いの良い知らせを告げよ。国々に主の栄光を語り伝えよ、諸国の民にその驚くべき御業を。」[1]

喜びなさい、と繰り返し勧めている 理由は明白です。神の御子がお生ま れになったからです。私たちに真の 自由をもたらそうと、神の御子が神 でありながら人となられたのです。 「時が満ちたとき、父なる神は御独 り子をつかわし、御子は聖霊の御業 によって、終生処女(おとめ)なる 聖マリアにおいて人となったので す。そうなさったのは、平和をもた らし、人を罪から救い、それによっ て私たちを神と親しく交わることの できる『神の養子』 (ガラテヤ4,5) にするためでした。こうして、人と

神との和解をもたらした(エフェソ 1,9-10参照)キリストにおいて全て のものを回復させ、全宇宙を無秩序 な状態から解放する仕事を(ローマ 6,4-5参照)、新しき人・神の子とい う(コロサイ1,20参照)新しい枝、 つまり人間にお与えになったのでし た。」[2]

贖い主は、数知れない善に加えて、 偉大な賜物である自由を私たちにも たらしてくださいました。それは、 私たちを「御子において子」[3]にし てくださった聖霊によって内的に動 かされ、愛ゆえに私たちが神に仕え ることができるようになるためで す。キリストの神秘体に組み入れら れたことによって、私たちを奴隷状 態に縛り付けてしまう恐れは捨て去 られました。聖パウロは思い起こさ せてくれます。「あなた方は、自由 を得るために召し出されたのです (…)。この自由を得させるため に、キリストは私たちを自由の身に

してくださったのです。だから、 しっかりしなさい。奴隷のくびきに 二度とつながれてはなりません。」 [4]

聖ホセマリアは、福音書にある veritas liberabit vos 真理はあなたた ちを自由にする[5]という聖句につい てこう記されました。「生涯をつら ぬく、この自由の道の始まりであ り、終わりである真理とは、一体ど のような真理のことなのでしょう。 神と人間の関係を知れば当然もちう る喜びと確信に満ちた答を要約して みましょう。ここでいう真理とは、 私たちが神のみ手から生まれ、至聖 なる三位一体の深い愛の対象とな り、かくも偉大な御父の子であると いうこと。この真理をよく自覚し、 日々味わう決心ができるよう主にお 願いしましょう。こうすれば、自由 な人間にふさわしい生き方ができま す。しっかりと心に刻んでおいてく ださい。神の子であることを知らな

い人なら、自分に最も近しい真理を 知らないわけですから、何ものにも まして主を愛する人らしく、自分を 支配し、自分に打ち勝つことはでき ないでしょう。」[6] 創立者が考察 したことを数多く取り上げることに するのは、それは主が私たちの手に 委ねられた〈金貨〉のようなものだ からです。イエス・キリストに従う ことと、聖なる教会と人々に仕える ことだけを追い求めた方が、その言 葉に込めた意味を全て引き出すよう にしましょう。だからこそ、再び皆 さんに勧めます。この宝物にもっと 頼りなさい。そうすれば神のお望み にもっと深く一致することができる でしょう。

神を愛し、神ゆえに全ての人を愛する自由は、神との父子関係から出てくる最も重要な結果の一つです。それゆえ、それを護り、尊敬し、人間生活のあらゆる分野で推進しなければなりません。これは、今日、1月1

日に祝われる「世界平和の日」の テーマです。ベネディクト16世は、 「平和への道としての信教の自由」 と題するメッセージで、政治家や宗 教界の指導者、そして全ての善意の 人たちに、神の似姿として創造され た人間に固有なこの大いなる善を推 進し護るようにと、力強く呼びかけ ておられます。この自由こそは、命 という善と共に、人間のあらゆる権 利を支える固い礎なのです。教皇は こう述べておられます。「真理と完 全な善へと開かれていること、すな わち神へと開かれていることは、人 間本性に根ざします。この開きがす べての個人に完全な尊厳を与え、人 間同十の尊重を保障します。それゆ え私たちは、信教の自由を、強制の 単なる欠如ではなく、むしろより根 本的に、真理に従って自らの選択を 秩序づける力と考えなければなりま せん。| [7]

聖ホセマリアが生涯中、神の賜物で あるこの自由を護るために情熱を傾 けておられたことが記憶によみがえ ります。ある新聞記者の質問への答 にそれが如実に表れています。創立 者はこう言われました。「オプス・ デイは、創立当初からいかなる差別 をもしたことはありません。あらゆ る人と共に生き働いています。一人 ひとりには尊重し愛すべき魂のある ことを知っているからです。このこ とは単に言葉の上だけではありませ ん。オプス・デイはカトリック教会 の中の組織として初めて、カトリッ ク信者でない人、キリスト者でさえ もない人を、協力者にすることを聖 座から認可されたのです。私は常に 良心の自由を擁護してきました。私 は暴力を認めることができません。 他者を納得させるためにも、他者に 勝利するためにも、適切な手段とは 考えられません。誤りを正すのは、 祈りと、神の恩寵と、研究です。決 して暴力に訴えることなく、常に、

愛徳を持って対処することです。] [8]

不幸なことに、いろいろな国では、 自己の良心に従って神を敬い、神に 仕えるという人権が大きな危機にさ らされています。「現在、信仰を理 由とした迫害をもっとも強く受けて いる宗教的グループはキリスト教徒 です」[9]と教皇が嘆いておられるよ うな状況にある所は少なくありませ ん。この迫害は、最近一度ならず目 にしたように、度々殉教者が出るほ どになるものです。教皇は続けま す。「他の地域では、宗教者と宗教 的象徴に対する偏見と敵意が、陰湿 かつ巧妙な形で見られます。| [10] 国民の大半がキリスト者であり、キ リスト教の伝統を保ち続けてきた諸 国でも起こっていることです。権力 のこのような悪用を目の当たりにし て、誰であれ良識ある人なら無関心 をかこつことはできません。「この ような状況は受け入れがたいもので

す。なぜなら、それは神と人間の尊厳を冒瀆するからです。さらにそれは、安全と平和を脅かし、真の完全な人間的発展の実現を妨げるからです。」[11]

このような現状をこれまでになかっ たことかのように考えてはなりませ ん。多分、現代はその範囲が広が り、新たな様相を帯びているでしょ う。また、情報の伝達がより簡単に より速くなっていることも事実で す。もっとも、常に世論が宗教的な 不寛容を適切に際立たせているわけ ではありません。しかし、歴史上の 新たな現象ではないのです。イエス ご自身がこう忠告されました。「世 があなたがたを憎むなら、あなたが たを憎む前に私を憎んでいたことを 覚えなさい。 (…) 『僕は主人にま さりはしない』と、私が言った言葉 を思い出しなさい。人々が私を迫害 したのであれば、あなたがたをも迫 害するだろう。私の言葉を守ったの

であれば、あなたがたの言葉をも守 るだろう。」[12]

旧約聖書においても告げられている ことです。再度、聖ホセマリアに耳 を傾けましょう。「詩編の第2を思 い起こしてください。『なぜ、異邦 の民は、乱れ騒ぎ、国々の民は、空 しく吠えたけるのか。この世の王た ちは立ち上がる、主とその注油され たものとに逆らって、君主たちは共 謀する。』(詩編2.1-2) 今になって 始まったことではないことがお分か りになるでしょう。キリストのご降 る人々がいました。キリストの平和 を告げる足音がパレスチナの道々に 響き渡る時にも、彼に反対する人々 がいました。そしてその後現在ま で、キリストの神秘体の成員を攻撃 し、迫害し続けているのです。な ぜ、こんなに憎むのでしょうか。な ぜ、汚れのない清純な人々をこれほ ど苦しめるのでしょうか。なぜ、

個々の人の良心の自由を押しつぶさ んとする態度がこんなにも広がっているのでしょうか。」[13] 幾世紀に いるのでしょうかい人々のこのでしまうかい人々のこのでしまうかい人々のこのでは もわたる数知れない人々のこのでは いるできる数知れない人々のこのでは に、聖書、特に黙示録が答えています。 黙示録は、比喩的象徴的にます。 勝利者としてご自分の王国に君臨されるまで続けられる教会の戦いを記しています。

トは無為に世の救い主となり、御父 の右に座し、支配しておられるので はありません。」[14] 教皇様がメッ セージの中で最初に強調されたのは 祈りです。「カトリック信者にお願 いします。暴力と不寛容の犠牲と なっている信仰における兄弟のため に祈り、彼らを支えてください。」 [15] 日々、真の信仰と信頼をもって 主を見つめ、自己の信教ゆえに、隠 れたあるいは明らかな迫害を受けて いる全ての人たちのために、心を込 めて祈りましょう。創立者が度々口 ずさみ、私たちが毎日唱えているut omnes unum sint! すべての人を一 つにしてください[16]という主のみ ことばが実現されるよう、振る舞っ てください。神への愛と、神の似姿 である人々への尊敬のうちに、皆が ひとつになりますように。こうして 私たちは、「全ての人が自由に自分 の宗教または信仰を告白することが でき、心を尽くし、思いを尽くして (マタイ22.37参照) 神への愛を表す ことができるような世界を築くために」[17]協力することができるのです。

この普遍的な兄弟愛への熱望が行動 の伴わない望みだけに留まらないよ うに、他のカトリック信者一人ひと りに最高の理解を示し、細やかな付 き合いをして、教会の懐の中で神に 向かう全ての道を愛するように努め ましょう。聖霊降臨の前のことです が、イエスのある使徒たちが、自分 たちと同じグループでない人の振る 舞いに、不寛容な態度をとったとき のことを語る福音書の場面を思い起 こしてみましょう。「『先生、お名 前を使って悪霊を追い出している者 を見ましたが、私たちに従わないの で、やめさせようとしました。』イ エスは言われた。『やめさせてはな らない。私の名を使って奇跡を行 い、そのすぐ後で、私の悪口は言え まい。私たちに逆らわない者は、私 たちの味方なのである。』| [18] 創

今もいつも、全ての人に一特に若い 世代に一このように振る舞うべきとを教えるのはとても大切です。例 えば、父親や母親は、家庭においれだ く親や母親は、家庭においれて、 模範と時宜を得た教えでおれだ け素晴らしい役割を実現でおることが する。同様に、学校におい断 をいる。 を示すことができますし、 がいたまするにより であれば、 聖ホセマリアがえた た友情と打ち明け話の使徒職におい

て実現できます。これは、「正当な 多元主義と世俗性の原理を拒絶する 極端な形態である点で似通ってい る、宗教的原理主義と世俗主義| [20]を排除する効果的な方法です。 わずかな、しかし絶え間ない行い は、あまり重要とは思えなくても、 湖に投げられた石が波紋を描くよう な現象を引き起こし、それは次第に 遠くまで広がっていきます[21]。噂 話をするという、残念ながら非常に 一般的になっていることをきっぱり と拒んでいますか。理解するように 振る舞い、また必要なら兄弟的説諭 をしていますか。他人の性格を尊重 し、それを妨げないようにしていま すか。

さらに、一人ひとりが市民としての 正当な自由を行使して、ふさわしい 公明正大な手段を使って、社会の慣 習や法律に影響を及ぼすよう努める ことができるでしょう。信仰がなく ても善意ある人たちに、互いに理解 し合うというこの役務に深く関わるよう勧めましょう。なぜなら、「信教の自由は宗教者だけの遺産では進足に在り、「それは地上に在り、「それは地上にで住のです。信教のです。であり、「四本のをはなら、信教のであり、なぜなら、信教のとはすべての基本的権利・自由をになります。なぜなら、信教ののとはすべての基本的権利・自由合であり、かなめ石だからです。」

創立者の生誕記念日が近づいています。この日のために、その教えに名のといるになり知れを広め、創立るより知れにで、からではないでは、創立者の時に接した私たちは、創立者が直に接したの言葉が真実であることをである。「私は生涯をからます。「私は生涯をからのできます。」といる。私に伴う個人について説き続けてきました。私

は、この世に自由はないものかと一 所懸命捜し求めてきました。今も探 し続けているのです。そして日増し に自由を愛する、と申し上げます。 この世の何ものにもまして、自由を 愛しています。自由こそ決して充分 に評価しつくせぬ宝でありますか ら。」[23]神に心底夢中になったゆ えに自由を愛したこの司祭の地上で の歩みとその教えの中に、多くの友 人や同僚が熱望していることとの接 点を見出すことができるでしょう。 彼らは善と幸せを捜し求めています が、それを見つけ出せないでいま す。それがどこにあるかを教えてく れる人がいなかったからです。

最後に、皆さんにも私の喜びに加わってほしいと願っています。クリスマス前にルーマニアのブカレストに行ってきたのです。向こうに住んでいるオプス・デイの人たちは、様々な困難のある場所で、最低限度の快適さしかない中で、喜んで道を

切り開いています。創立者が聖トマ ス・アクイナスの教えを踏まえて繰 り返していたように、この現実から 多くの使徒職の実りが出ているので す。滞在したのは二日間だけでした が、非常に充実した日々であり、オ プス・デイの精神が様々な伝統に彩 られた文化の中に根付いている様子 を、再度、目の当たりにすることが できました。私が神様に感謝するの を助けてください。そして、教会と 教皇のため、私の全ての意向に固く 一致して祈り続けてください。私の 意向は本当に多いのです。

心からの愛情を込めて祝福を送ります。2011年が霊的実りに満ちた年になりますように。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2011年1月1日

- [1] 詩編 96,1-3.
- [2] 聖ホセマリア、『知識の香』183 番。
- [3] 第二バチカン公会議、『現代世 界憲章』22番。
- [4] ガラテヤ5,13;1.
- [5] ヨハネ8,32.
- [6] 聖ホセマリア、『神の朋友』26 番。
- [7] ベネディクト16世、2010年12月8日、2011年「世界平和の日」メッセージ3番。
- [8] 聖ホセマリア、 『Conversaciones』44番。
- [9] ベネディクト16世、2010年12月 8日、2011年「世界平和の日」メッ セージ1番。

- [10] 同上。
- [11] 同上。
- [12] ヨハネ 15,18-20.
- [13] 聖ホセマリア、『知識の香』185番。
- [14] 同上186番。
- [15] ベネディクト16世、2010年12 月8日、2011年「世界平和の日」 メッセージ1番。
- [16] ヨハネ 17,21.
- [17] ベネディクト16世、2010年12 月8日、2011年「世界平和の日」 メッセージ1番。
- [18] マルコ9,38-40.
- [19] 聖ホセマリア、1954年4月16日 の説教のメモ。

[20] ベネディクト16世、2010年12 月8日、2011年「世界平和の日」 メッセージ8番。

[21] 聖ホセマリア、『道』831番参 照。

[22] ベネディクト16世、2010年12 月8日、2011年「世界平和の日」 メッセージ5番。

[23] 聖ホセマリア、『知識の香』 184番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2011nian-1yue/ (2025/12/11)